

「キリストからの祝福」⑤あわれみときよさ

マタイ 5:3~7

少し時間が空いてしまいましたが「キリストからの祝福」ということで主イエスが弟子や信じる者に山上で語られた教えを学んでいます。どの句も「・・・幸いです」とあります。「幸いです」と聞くと確かに悪い気はしません。しかし少し漠然としていると思います。実際の意味は「祝福を受ける」ということで何となく幸せということではありません。主イエスは人がどのような時に祝福を受けるのかという話をされたのです。そのような点から今日は7節と8節よりあわれみときよさについて見てゆきたいと思います。

「あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。」マタイ 5:7

あわれみとは聖書の中によく出てくることばで愛情の中の一つの特殊な形です。それは相手の弱さに応じて、自分が歩調を合わせようとする気持ちであり、これが無ければ自分勝手な生き方をする人ばかりになりますので、あわれみは人間生活に欠くべからざるものと言えます。ですから憐れみ深い人になるには何よりも相手の身になって考え行動することが必要です。「喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。」ローマ 12:15 とあるように相手の心を感じるための共感能力が必要になります。それが無いとあわれみというよりも単なる同情、ひいては自己満足の行為となるかもしれません。ある作家が昔、高校の入学試験を受けた際、合格発表の日の朝、父親が「おまえ、今日試験に落ちてたら、前から欲しがっていたカメラを買ってやろう」といったそうです。彼は「自分の子供が試験に落ちたら良いと思ってるのか。変なおやじだな」と思ったそうです。しかし、何十年も経って、今度は自分の子供が入学試験を受けた時に父親の言ったことの意味が分かったそうです。それは「もし息子が落ちた時にどうやって慰め、元気づけようか」と悩んで、出したことばであることが分かったということです。もちろん、子供に落ちて欲しいなんて思っていない。親も悲しいけれど、それ以上に子供の悲しみを思うと何でもしてやりたくなる心。つまり悲しく辛い思いをしている当人の身になって考えてやる心を憐れみ深いということです。

しかし人の身になって考えることは言うは易し行い難いものです。人の身になって考えなければならぬとしたら、ありとあらゆる体験をしなければならぬことになります。そんなことはほぼ不可能なことです。しかし主イエスは弟子たちにそして私たちに、たとえ相手と同じ境遇、同じ体験をしていなくても憐れみ深くなれる秘訣を教えて下さっています。それは後に続く「その人たちはあわれみを受けるから」ということばです。人に憐れみ深くあられるのはどんなに神が私を憐れんでいてくださるのが分かる時です。自分自身が神の前であって、あわれまれるべき罪びとと自覚出来るかどうかにかかっています。主イエスのそばに様々な人が集まっていました。その中に、罪びと、取税人、遊女といった言わば当時の社会で無視されたり、虐げられられた存在の人たちがいたのです。自分たちは罪深い者であり、今までの償いをしろと言われても到底埋め合わせをすることは出来ない。自分たちは救いを要求出来るようなものではなく、ただ口にできるのは「主よ。みこころならば私を憐れんでください」ということばだけであったのです。人は誰でも聞くと嫌なことばの一つは「人に憐れまれる」ということではないでしょうか？ 特にクリスチャンは私は人を助けてあげるもので助けてもらう者ではないと思いがちです。私は人を憐れんであげる存在であって人に憐れんでもらうような存在ではない。しかしこの自分自身のプライドと言いましょか、自意識が人に対して憐れみにくくさせているのです。「そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになるのです。」ヘブル 2:17, 18 主は私たちを助け、救い出すために人となり、私たちと同じ試練を受けてくださいましたが、この「キリストのあわれみ深さ」によって私たちが慰めと救いを得るのです。それを思うとどうして同じように弱い

人々のためにあわれみ深くならずにおられるのでしょうか？他人へのあわれみは私自身がキリストから受けたあわれみの結果なのです。

次に「心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。」を見ます。心がきよい者とはどのような人のことを言うのでしょうか？ 私たちが直接「あなたはきよいですか？」「きよめられていますか？」と聞かれたらほとんどの方はきよくありませんと答えることでしょう。では不可能なことを主イエスは語られたのでしょうか？そうではありません。当時、社会的にはいわゆる「きよい人」と言われ、自らもそのように自負していた宗教家や学者に主イエスは「わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。目の見えぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよくなります。」マタイ 23:25, 26 と言われました。当時のユダヤの立派な宗教家たちは外形の見てくれや規則、聖書の戒めを守ろうとしていました。それも真剣に取り組んでいました。しかしそのようなやり方は人の内側に及ばないで形式主義・律法主義に陥ってしまうのです。そしていつの間にか他人の信仰を見かけで判断し、さばき、批判するようになってしまいます。外から始めると内にまで及ばずに外で終わってしまいます。内から始めてこそ、内も外も全体がきよくなると主イエスは教えられました。

では「心をきよくする」とはどうすることなのでしょうか？ もちろん何もしないでそのまま道徳的宗教的にきよいのが理想でしょうがそんな聖人は現実にはどこにもいません。この時いた弟子たちや群衆の中にも一人もいなかったと思います。今日の詩篇 24:4, 5に「手がきよく、心がきよらかな者、そのたましいをむなしいことに向けず、欺き誓わなかった人。その人は主から祝福を受け、その救いの神から義を受ける。」と書かれていますが、きよい者とは心を空しいことに向けず、偽りの誓いをしなかった者ということが分かります。ですからきよい人とはむなしいことに心向けない、つまり心が二股をかけない人、それは一心に神を求める人のことを意味しています。ヤコブ 4:8で「二心の人たち。心を清くしなさい」とここでも二心でない一心な人であると言われていています。一言で言うなら「きよい者とはキリストのみに目を向ける人」のことです。ヨハネ 15:3で「あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです」と言われました。ぶどうの木と枝とのたとえの話の中で出てきますがこのことばもキリストとしっかりと繋がっていることが前提の話なのです。

さてこのように「心のきよい人」つまり一心に神を見つめ続ける人、キリストのみに目を向ける人は、みことばにあるようについに神を見る事が出来るというのです。「神を見る」ということは現実的に誰も体験したことのない夢のような話です。しかし、それだからこそ「神を見ること」は人間の最も切なる願いであり、特にキリスト者である私たちにとっては真剣に考えておかなければならないことと言えます。ヨハネ第一の手紙 3:2, 3に「私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。キリストに対するこの望みをいただく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」とあります。「キリストを見ること」「神を見ること」これはキリスト者に与えられている約束であり、究極の目標なのです。

私達は本当のところ「神を見たい」と願っているのではないのでしょうか。一般的な言い回しですが何もかもうまく行かない時に「神も仏もあるものか！」と言ってわめきます。「神がいると言うなら見せてくれ」と突っかかって来る人もいます。でもそういった発言は根本的には「神がいて欲しい」という思いがあるからだと思うのです。なぜなら元々、私たちは神の形に似せて造られたからです。身のまわりを静かに見つめるなら私たちの心の目には創造主なる神のみわざを見てとれるのではないのでしょうか？ 見えないとしたら、私たちが二心で神にもこの世のことにも目がくらんでいるからかもしれません。

あわれみときよさについて学んできました。「あわれみ深い人のさいわい」、それは、神のあわれみから始まり、再び、神のあわれみへと返っていきます。わたしたちもこの礼拝で、あわれみ深い神に出会い、神のあわれみに満たされ、あわれみのわざへと導かれたいと思います。また神のかたちに造られた人間は、神のきよさにあずかってこそ、ほんとうの幸いを得ます。主イエスは、「心の清い者は幸いです。その人たちは神を見るから」とおっしゃって、「きよい心」を求め、受け取り、育てる人々に「神を見る」という祝福を約束されました。あわれみ深い者、心のきよい者となるように祈ってゆきましょう。

(祈り) わたしたちのさいわいのみなもとである父なる神さま、ほんとうのさいわいは、わたしたちの心の奥深くに与えられるあなたからの祝福です。どうぞ、わたしたちの内側にある、あなたの祝福が、わたしたちの置かれた場所をさいわいの場所へと変えて行くまでに、わたしたちを守り、導き、助けてください。あわれみ深い者、心のきよい者となるように導いてください。主の御名によって祈ります。